

平成22年3月 東京地区百貨店売上高概況

平成22年4月19日

I. 概況

1. 売上高総額	1,318億円余
2. 前年同月比	-5.1% (店舗数調整後/25か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-3.6%(87.9%) : 非店頭-14.4%(12.1%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	14社 27店 (平成22年2月対比±0店)
5. 総店舗面積	934,425㎡ (前年同月比:-5.2%)
6. 総従業員数	20,663人 (前年同月比:+11.4%)
7. 3か月移動平均値	8-10月 -11.4%、9-11月 -11.9%、10-12月 -9.9%、 11-1月 -8.2%、12-2月 -6.5%、1-3月 -6.3%

【参考】平成21年3月の売上高増減率は-12.9% (店舗数調整後)

【3月売上の特徴】

- (1) 春物衣料は中旬まで順調に推移していたが、下旬の冷え込みで最終的には伸び悩む結果となった。その反面コート需要が盛り上がるなど変則的な動きが見られた。
- (2) 東京地区でも家庭用品が22か月ぶりに前年比プラスとなったが、節約疲れを感じ始めた消費者が、気分転換を求めて身近な生活アイテムを購入している現象と分析できる。
- (3) 株高の資産効果で富裕層消費が活気づいており、中でも高級時計は都内の多くの店で二桁増の伸びを示している。
- (4) 物産展の人気は根強く3月も各店で積極展開され好調に推移した。また、その他特徴的な催事としては、インターネット事業者とのタイアップ企画などが話題となった。
- (5) 今年のホワイトデー商戦の特徴は、バレンタイン同様に自分へのご褒美需要が伸びており、自家消費の目的で購入するケースが目立って増加している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比-0.9日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見ると傾向値/前年同月比)
 - ①増加した: 2店、②変化なし: 6店、③減少した: 11店、④不明: 3店
- (3) 3月歳時記 (ひな祭り、彼岸、ホワイトデー、卒業・入学、新社会人) の売上 (同上)
 - ①増加した: 1店、②変化なし: 9店、③減少した: 2店、④不明: 10店
- (4) 翌月売上見通し (回答店舗数で見ると傾向値)
 - ①増加する: 2店、②変化なし: 10店、③減少する: 7店、④不明: 3店

東京地区百貨店 売上高速報 2010年03月

※店舗数調整後 ()が調整前

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	131,874,608	100.0	-5.1 (-7.3)
紳士服・洋品	9,287,590	7.0	-6.6 (-8.8)
婦人服・洋品	28,784,926	21.8	-7.2 (-10.0)
子供服・洋品	5,262,642	4.0	-1.5 (-1.9)
その他衣料品	2,944,412	2.2	-2.7 (-6.5)
衣 料 品	46,279,570	35.1	-6.2 (-8.7)
身のまわり品	17,725,890	13.4	-5.9 (-9.8)
化粧品	7,107,931	5.4	-5.0 (-5.5)
美術・宝飾・貴金属	6,689,638	5.1	-0.7 (-3.8)
その他雑貨	7,399,584	5.6	-9.2 (-9.9)
雑 貨	21,197,153	16.1	-5.2 (-6.6)
家具	2,326,471	1.8	-3.0 (-6.2)
家電	707,720	0.5	-6.5 (-6.6)
その他家庭用品	4,994,780	3.8	8.0 (5.5)
家庭用品	8,028,971	6.1	3.2 (0.7)
生鮮食品	4,653,334	3.5	0.0 (-1.6)
菓子	9,923,033	7.5	-3.6 (-5.1)
惣菜	6,328,387	4.8	-3.2 (-4.5)
その他食料品	8,748,089	6.6	-4.6 (-6.4)
食 料 品	29,652,843	22.5	-3.3 (-4.8)
食堂 喫茶	3,402,292	2.6	-8.6 (-10.2)
サービス	2,192,771	1.7	-11.0 (-12.1)
そ の 他	3,395,118	2.6	-10.1 (-10.5)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)
※

商品券	7,185,482 千円	99.7 (94.8)
従業員数	20,663 人	11.4
店舗面積	934,425 m ²	-5.2

営業日数	31.0 日	前年	30.1 日
------	--------	----	--------

II. 商品別の動き

主要5品目は、17か月全品目マイナスが続いていたが、全国同様、家庭用品が3.2%と22か月ぶりにプラスとなった。家電が先月より落とす動きとなったが、その他の品目はすべて改善する結果となった。生鮮食品が前年並み、その他家庭用品が8.0%と3か月ぶりにプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-5.1	—	25か月連続マイナス
紳士服・洋品	-6.6	-0.5	24か月連続マイナス
婦人服・洋品	-7.2	-1.6	20か月連続マイナス
子供服・洋品	-1.5	-0.1	19か月連続マイナス
その他衣料品	-2.7	-0.1	23か月連続マイナス
衣料品	-6.2	-2.2	20か月連続マイナス
身のまわり品	-5.9	-0.8	24か月連続マイナス
化粧品	-5.0	-0.3	16か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	-0.7	0.0	2か月連続マイナス*
その他雑貨	-9.2	-0.5	22か月連続マイナス*
雑貨	-5.2	-0.8	23か月連続マイナス
家具	-3.0	-0.1	24か月連続マイナス
家電	-6.5	0.0	3か月連続マイナス
その他家庭用品	8.0	0.3	3か月ぶりプラス
家庭用品	3.2	0.2	22か月ぶりプラス
生鮮食品	0.0	0.0	9か月連続マイナス*
菓子	-3.6	-0.3	14か月連続マイナス*
惣菜	-3.2	-0.1	24か月連続マイナス*
その他食料品	-4.6	-0.3	6か月連続マイナス*
食料品	-3.3	-0.7	18か月連続マイナス
食堂喫茶	-8.6	-0.2	17か月連続マイナス
サービス	-11.0	-0.2	2か月連続マイナス
その他	-10.1	-0.3	3か月連続マイナス
商品券	99.7	2.6	8か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・西田・佐藤まで

TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>